

リビングウイル普及明確に

尊厳死協会が 名称変更検討

終末期の延命措置の希望を事前に記す「リビングウイル（LW、事前指示書）」の普及

啓発活動を行う「日本尊厳死協会」（東京、岩尾総一郎理事長）が、尊厳死という言葉が無用の誤解を招いているなどとして、協会の名称変更を視野に検討していることが分かった。

（17面に関連記事）

末期の脳腫瘍で余命宣告された米女性が1日、医師から処方された薬を服用して安楽死したケースが、日本で尊厳死と報じられた。元厚生労働省医政局長の岩尾理事長は「海外

では尊厳死に安楽死の一部を含める概念が定着しているが、国内では『平穏死』や『自然死』と同義語。理念が異なる」と解説し、協会事務局は「協会がLWの普及啓発団体であることを分かりやすく示す必要がある」としている。

事務局によると、協会が出資して既に設立した一般財団法人「リビング・ウイル トラスト ジャパン」に来年4月、協会を統合する方針。現在は全会員

を社員とする一般社団法人だが、「スリムない、組織運営で同様の活動ができる財団法人の方が実態に合っている」とし、社団法人から財団法人への直接移行ができないことから、吸収して組織統合する形をとる。

統合後の新名称は現在協議中で、年内にも開く社員総会で決定する。

事務局は「法人形態の変更を機に名称を再考することにした」と説明。新名称については「リビングウイルを中心にするのが妥当」との意見がある一方、「尊厳死を長年使

（岡敦司）